議　事　録				確認			作成
テーマ	こどものまちプロデューサー（仮）養成講座　カリキュラム作成会議　第1回目						内山
日時	2010年5月18日（火）	場所	こども盆栽天王寺事務所				
出席者 （敬称略）	伊藤　谷岡　八木　椋代（関 吉村　毛受　村井　松浦						
配付資料	教育と遊びの違いについて（by堀さま） 南大阪地域大学コンソーシアム　キャリア教育コーディネーター研修プログラム						

【内容】		【アクション】（敬称略）
アイスブレイク	2人一組or3人一組で自己紹介。×２	
こどものまちとは？	ミニ大阪の映像鑑賞	
カリキュラムの具体的イメージを掴む	キャリア教育コーディネーターの例を提示	
ワーク１	今までの人生で最高の瞬間についてシェア	
ワーク２	こどものまち開催にあたって関わる人たちとは！？ 子ども 小学校 保護者 ボランティア（シニア） ボランティア（高校生・大学生） 地域事業者 仕事のプロ 地域（PTA） 行政	これらが〇年後どうなるのが理想か？ こども盆栽の考えるステークホルダーのシナリオを提示する（松浦）【次回まで】
	いろんなこどものまちがあるので、関わる人を絞るのは無理なのでは？ 最高の「子ども像」は人によって違うので、先に提示してもらった方が考えやすい なぜ働くのか、なぜ学ぶのか、を考える機会を提供することが、こども盆栽がこどものまちをする目的。 この場でターゲットとする「こどものまち」の目的や目標がシェアされていない段階なので、まず、方向を定めないと進まないのではないか。 こどものまちによって、何かが変わる（例えば、学校・教育・産業界…）	こども盆栽の考えるこどものまちの目的や目標を提示する（松浦）【次回まで】
	何のためにこどものまちを行うのか 遊び（レクリエーション）の限界性 現在はまちづくり、キャリア教育に対してお金が出ている。 小学校現場で、どのように対象を絞るのか こどものまちは対象の発達段階も重要 こんな子に来て欲しいと思う子は来ない。来る子はもともと意欲がある子。 学校教育・家庭教育・地域教育をバランス良く見てくれる人が必要。 成功パターンを身につけさせる→定石になる 準備の負担が大きい。（かつてのキッズマート）→システム的に作られているのが望ましいのでは 「流行」になると行政のお金も出やすいのでは ボランティアの大学生・高校生など、やりたいと思う人を育てるのが早い	
ワーク３	こどものまちプロデューサー養成講座を行う上で重要なポイン キッザニアとの違い 金・人・機会があればスタートする 子どもの参加・参画 中等教育の壁・遊びの貧困に対する対抗策となる 生活の身辺の自立（自律）疑似体験 遊びとは、失敗しても大丈夫、成功体験をさせるも憧れとしての仕事と生活のための仕事。 小学校高学年・中学校で変わっていく。そこにこどものまちが関われるのではないか 的との距離感を知るために遊びがある。 アフォーダンス・レディネス 講座は様々なこどものまちの形態があるけれど、どれを選ぶかは受講者次第というスタイルで行う。	
チェックアウト	キャリア教育の部分を大切にしていく	